

【 復活のトロパリ 第3調 】



てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの
天在者樂、地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら
悦主其臂力顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復
死以死滅

くかつのはじめとなあり、われらをぢごく
活首我等地獄

のはらよりすくうい、せかいにおおいな
腹救世界大

るあわれみをたまいたればなり。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
使徒等同座者忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
實神智役者聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい
神撰笛愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
満器我國光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
照お者亜使徒主教聖

よ、なんぢのぼくぐんのため あめ、および
爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
全世界 爲 生命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこ おとせいしんにき
光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成 聖 者 亞 使 徒 聖 我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか
屬 神 子 爲 彼 等 神

みの おんちようを あた え、ハリストスのきょうか いを たて
 恩 寵 與 教 會 建
 た り、いまこのきょうか いのた めにいのり
 今 此 教 會 の 爲 に 祈
 た ま あ え、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べ よ。

【 復活のコンダク 第3調 】

いまもいつもよよにい、アミン。
 今 何 時 世 世 に い、ア ミ ン。
 じれんなるしゅよ、な あ あんぢは いまはかよりふ
 慈 憐 主 爾 今 墓 復
 くか つして、われらをしのもんよりのぼせ
 活 我 等 死 門 升
 た ま えり。いまアダムはたのしみ、
 給 今 樂
 エヴァ はよろこおび、しよよげんしゃはれつそとと
 歡 諸 預 言 者 列 祖 偕
 も に たえずなんぢのけんぺえいのしんせい
 絶 爾 權 柄 の 神 聖



なるのうりょくをほめうとお
能力讃歌う。

司祭) (黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
ねがものちえめいごあたつみおこなものすそのすくいためつうかい
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行なう者を棄てずして、其救の爲に痛悔
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
もつわれらのぞわれらおよじゆうじゆうつみゆるわたましいからだ
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世
に、



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖神聖勇毅聖
じょうせいのもものよ、われらをあわれめ
常生者我等憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常生者我等を憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖勇毅
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等を憐
れめよ。こうえいはちとことせいしん
光榮父子聖神
にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等を憐
れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖勇
き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅聖常生者我等を
あわれめよ。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第3調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{わ かみ うた うた} プロキメン、我が神に歌い歌えよ、^{わ おう うた うた} 我が王に歌い歌えよ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お 王
我 神 歌 歌 我 王
う に う た い う た え よ 。
歌 歌

誦經) ^{ばんみん て う よろこび こえ もつ かみ よ} 萬民よ、手を拍ち、歡の聲を以て神に呼べ、

わ が か み に う た い う た え よ 、 わ が お 王
我 神 歌 歌 我 王
う に う た い う た え よ 。
歌 歌

誦經) ^{わ かみ うた うた} 我が神に歌い歌えよ、

わ が お う に う た い う た え よ 。
我 王 歌 歌

【 ^{アポストロス} 使徒經 182半端 コリント後書6章16節~7章1節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ こうしょ よみ} 聖使徒パヴェルがコリント人に達する後書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい なんぢら い かみ でん かみ かつ い ごと いわ われかれら うち お} 兄弟よ、爾等は活ける神の殿なり、神の嘗て言いしが如し、曰く、我彼等の中に居

^{かれら うち ゆ われかれら かみ かれらわれ たみ しゅまたいわ ゆえ なんぢ}り、彼等の中に行かん、我彼等の神となり、彼等我の民とならん。主又曰く、故に爾

^{ら かれら うち い みづか はな けがれ ふ なか しか われなんぢら い われ}等は彼等の中より出でて、自ら離れよ、汚穢に觸るる勿れ、然らば我爾等を納れん、我

^{なんぢら ちち なんぢらわれ しちよ しゅぜんのうしゃこれ い こ ゆえ しあい もの}爾等の父となり、爾等我の子女とならん、主全能者之を言う。是の故に至愛の者よ、

^{われらすで か ごと きよやく え おのれ およそ にく しん けがれ いさぎよ かみ}我等既に此くの如き許約を得たれば、己を凡の肉と神との汚より潔くし、神を

おそ もつ せい な
畏るるを以て聖を成すべし。

(比較用 口語訳) わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」。だから、「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触てはならない。触なければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる」。愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなるうではないか。

【 アリルイヤ 主日第3調 】

司祭) ^{なんぢ へいあん} 爾に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

A musical staff in G major (one sharp) with a treble clef. The melody consists of quarter notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The lyrics 'アリル イ ヤ、アリル イヤ、' are written below the notes.

A musical staff in G major with a treble clef. The melody consists of quarter notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The lyrics 'ア リル イ ヤ。' are written below the notes.

誦經) ^{しゅ われなんぢ たの ねが われよよ はぢ え} 主よ、我 爾を恃む、願わくは我 世に羞を得ざらん、

A musical staff in G major with a treble clef. The melody consists of quarter notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The lyrics 'アリル イ ヤ、アリル イヤ、' are written below the notes.

A musical staff in G major with a treble clef. The melody consists of quarter notes: G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4, F#4, G4, A4, B4, C5, B4, A4, G4. The lyrics 'ア リル イ ヤ。' are written below the notes.

誦經) ^{わ ため けんご かくれが われ つね かく え たま} 我が爲に堅固なる避所となりて、我に常に隠るるを得しめ給え、



司祭) (黙誦：^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ し}人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の淨き光を輝かし、我が思
^{ねん め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ}念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠
^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ}を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ
^{ところ おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ}所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神
^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいし}よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至
^{ぜん いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ}善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【 エヴァンゲリオン 福音經 マトフェイ福音書62端 15章21～28節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん}睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



司祭) マトフェイ傳の聖福音經の讀、



司祭) ^{つつし き か とき およ ち い み おんな}謹みて聴くべし、彼の時イイス、ティル及びシドンの地に入れり。視よ、ハナアンの婦
^{そのさかい い かれ よ い しゅ こ われ あわれ わ むすめまき よ}其疆より出でて、彼に呼びて曰えり、主ダヴィドの子よ、我を憐め、我が女魔鬼に憑ら
^{はなはだ しか かれいちごん かれ こた そのもんとつ かれ こ い}るること甚し。然れども彼一言も之に答えざりき。其門徒就きて、彼に請いて曰えり、
^{これ さ けだしわれら あと よ かれこた い われ ただ いえ ほろ}之を去らしめよ、蓋我等の後より呼ぶ。彼答えて曰えり、我は唯イズライリの家の亡び

ひつじ につか かわ されたり。 婦 近 づきて、 彼 を 拜 して 曰 えり、 主 よ、 我 を 助 けよ。 彼 答

え て 曰 えり、 兒 曹 の 餅 を 取 りて、 狗 に 投 ぐる は、 宜 し け ら ず。 婦 曰 えり、 主 よ、 然 り、 唯

いぬ も 又 其 主 の 食 卓 より 遺 つる 屑 を 食 う。 其 時 イエ ス 答 え て 彼 に 謂 えり、 嗚 呼 婦 よ、

爾 の 信 は 大 な り、 爾 が 望 む 如 く 爾 に 成 る べ し、 其 女 斯 の 時 より 愈 え たり。

(比較用 口語訳) イエスはそこを出て、ツロとシドンとの地方へ行かれた。すると、そこへ、その地方出のカナンの女が出てきて、「主よ、ダビデの子よ、わたしをあわれんでください。娘が悪霊にとりつかれて苦しんでいます」と言って叫びつづけた。しかし、イエスはひと言もお答えにならなかった。そこで弟子たちがみもとにきて願って言った、「この女を追い払ってください。叫びながらついてきていますから」。するとイエスは答えて言われた、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外の者には、つかわされていない」。しかし、女は近寄りイエスを拝して言った、「主よ、わたしをお助けください」。イエスは答えて言われた、「子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」。すると女は言った、「主よ、お言葉どおりです。でも、小犬もその主人の食卓から落ちるパンくずは、いただきます」。そこでイエスは答えて言われた、「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。あなたの願いどおりになるように」。その時に、娘はいやされた。

しゅよ、こうえいはなんちにきし、こうえいは
主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんちにきす。
爾 歸

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀)へ